

 	<p>オピニオン</p> <h2 style="text-align: center;">SCE・Net の更なる活性化 の一案</h2> <p style="text-align: center;">SCE・Net 長安 敏夫</p>	<p>0-15</p> <p>発行日 2013.10.24</p>
--	--	---------------------------------------

SCE・Net は素晴らしい組織である。SCE・Net はどんな組織かを要約すると、化学工学会に関係するシニアエンジニアを中心とした団体で、“社会貢献と自己発現”の理念のもとで、相互研鑽と自己啓発をしつつ社会貢献する組織である。もっと具体的にどんな考え方でどのように運営しているかは以下の資料を見ていただくとよく理解していただけたらと思う。

- (1) SCE・Net ホームページの「SCE・Net の歩み」より「SCE・Net10年誌」を開いていただき、この第1章「創設時の状況」を読まれると、今から13年前の設立時に中心になって活躍された方々による思い入れが分かる。見事に今のSCE・Netの基礎を築いていただいたことに感心する。
- (2) では現在どのような考え方で、どのような方法、形態で活動しているか、については、現代表幹事が書かれた「シニア・ケミカルエンジニアの活躍の場を作る」という要約文を読んでいただくのが良い。これは同じくホームページの「産学官連携」のリンク先に化学工学会年会での発表資料があり、この中の第78年会の一つに上記の演題がある。要旨を是非読んでいただきたい。
- (3) 再々度ホームページのトップに戻っていただき、「相互研鑽と交流」を見ていただくと、SCE・Net 内部の研鑽と交流の種々の場をご覧になることができる。技術懇談会や交流会は内部だけではなく、会員外の方々の会員紹介を通じての参加も歓迎している。また、「社会への貢献」を見ていただくと、種々の社会貢献の形態が分かる。

以上を見て、SCE・Net は非常に良い形で会員に活動の場を提供する素晴らしい組織だと改めて思う。会員はシニアのケミカルエンジニアが中心であるが、限定している訳ではない。

この素晴らしいSCE・Netの中でどの程度の割合の会員が活動に参加しているかを調べてみた。現在SCE・Netの個人会員数は約90名である。定期的に会合を開いて相互研鑽する研究会が7個あるが、いずれか或いは複数の研究会に属している人の数は約50人であり、7個の研究会（安全、環境、装置、教育、エネルギー、神奈川）のそれぞれの会員数は5～14人、各会員数を合計すると60人弱である。約10人は2個の研究会に属しておられる。公開講座で何らかの講義を受け持っている人は約30名である。研究会所属或いは公開講座受け持ちの人の数は60数名である。

以上は、ホームページの会員専用ページ内にある会員登録表より集計してみた数字である。この他に個人的或いはグループで法人会員の企業にコンサルタント活動をしている人もいる。

1～2か月毎に実施される技術懇談会は1名の会員と続いて外部講師が講演される講演会が2時間、その後続いて立食形式で行われる懇親会が1時間であり、毎回30名前後が参加される。また、年に数回実施される交流会は多くの会員にとって興味があり、また大いに参考になる施設、設備などを見学する催しで、毎回10～20名が参加される。過去にどのような所に見学にいったかは、ホームページに詳しく掲載されている。

ここまでは現状説明だが、以下で“SCE・Netの更なる活性化”を考えてみる。以上の説明は事実に基づいて書いたが、以下はあくまで自分の頭の中だけで勝手に考えている一案である。

前述したように会員90名の内、研究会や公開講座講師と言った自主的活動に定期的に参加している人は約7割である。全員が常に何らかの活動に参加している状態を求めるのは無理であろうと思う。約7割というのは上出来の方かとも思う。ただ現在は活動していないが、こんな活動の場があれば参加してみたいと考えておられる会員にとって、それを探す道は見えないと思う。そんな道が具体的にあれば良いと思う。

SCE・Netには多くの企業が法人会員として加入いただいている。法人会員企業にとっては、出来れば特定の会員或いはグループからその経験と知恵を活かした貢献を得たいという期待を持っておられると思う。そのためには更に有効な情報提供或いは情報交換の場が求められると思う。

これらの情報として、ひとつはホームページがある。トップページに必要な要素は全て載っており、それぞれのリンク先に具体的説明もある。ただ、そのリンク先の内容が現状の活動状況を表しているか、或いは必要な情報が提供されているかという目で見るとかなり不十分のところもある。例えばトップページの「コンサルティング」をクリックしてページを開くと、会員名抜きで各会員のコンサルタントとしての表明（コンサルタントプロフィール）、及び活動領域ごとの各会員のコンサルティングできる内容（コンサルタント活動領域とプロフィール）の各一覧表があるが、しかし、現在は一部のデータしか載っておらず、近く大幅補充することを検討中である。各研究会の紹介も必ずしも最新の情報が反映されておらず、会員も含めて研究会員以外の人にとって、一緒に活動してみたいと思えるような訴えの工夫が望まれる。

ホームページやパンフレットなどの目で見える情報だけでなく、実際にどんな活動をしているか、今後こんな活動をしたい、このような活動グループが出来れば良い、法人会員としては会員とこのような交流ができると良い、などの情報交換と話し合いの場があると良いと思う。現状で考えると、毎年4月に行われる総会

及び1～2か月に1回行われる技術懇談会ではそれぞれの後半に約1時間の懇親会があり、立食形式なのでいろんな相手と話し合いができる。4月の総会ではSCE・Netの全体及び各活動単位について前年度の活動報告と今年度の活動方針が発表されるので、当然懇親会ではSCE・Net発展のための話題が出やすい。一方、技術懇談会の後半の懇親会はその日の講演を基にした感想や意見交換が主目的である。いずれにおいてもSCE・Netの更なる発展に結び付く話し合いもある程度はあると思われるが、それを具体的に活かしていく道は今のところはない。

そこで私の提案だが、SCE・Netの活動の更なる発展及び新しい活動について話し合う場を設けたらどうだろうか。

具体的には年に1回或いは2回程度、「SCE・Net活性化懇談会」というような集会を設ける。各研究会、技術懇談会、交流会、公開講座の代表及び興味をお持ちの全会員に出席していただく。各研究会からは研究会の簡単な現状或いは実績と今後の活動計画、会員募集の呼びかけを1研究会5～10分（トータル50分）程度で発表していただく。また、いくつかの法人会員企業よりトータル20～30分でSCE・Netに望むことをお話しいただく。続いて30～40分のフリーディスカッションを行う。以上をトータル2時間程度の会議形式で行い、後は1～1.5時間の自由懇談会（立食式懇親会）で研究会の勧誘、新しい活動提案の話し合い、法人会員と個人会員の情報交換や協力関係の話し合いなど、出来るだけ実りのある会とする。結果はホームページに発表し、また次回の技術懇談会懇親会でも発表する。

このような試みを通じて、新たな活動が生まれたり、各研究会の活動内容の充実が図れないかと考える。

これはほんの試案であるが、SCE・Netの更なる発展・充実のためにいろんな形で意見交換ができ、具体的な活動が生まれると良いなと思っている。会員外の方でSCE・Netについての意見、質問を出される場合はホームページの「お問合せ」によるメールで、会員の方は近しい幹事の一員に意見をよせていただくと良いのではないかと思う。場合によって幹事会の議題となり検討・推進されるかと思う。